

## 〈東京地区図書館見学記〉

# 東京地区図書館見学会レポート

文学部文化史学科 一 井 佐知子

2008年9月17、18日の二日間、同志社司書課程主催による東京地区の図書館見学会に参加しました。二日間に訪問させていただいたのは、17日に浦安市立中央図書館、18日に国立国会図書館国際子ども館、国立国会図書館、そして福音館書店です。

まず最初に訪れたのは浦安市立中央図書館です。こちらでは館内見学と、森田館長のお話をうかがいました。浦安市図書館の方針は「市民に対しての図書館奉仕」。中小レポートなど戦後の図書館を支えた基本的な理念に基づいた、多くのサービスを行っています。

例えばその一つがビジネス支援です。浦安にはビジネスマンが多いため、新聞や統計資料、白書等を備えた参考資料室やレファレンス、子供向けのビジネス・スクールの開催などビジネス支援に力を入れています。私が拝見した時も多くの利用者が調べものをしていました。

他にも、出世児への絵本配布（ブックスタート）や、学校に司書が出張して絵本の読み聞かせを行ったり、病院への図書宅配サービスも司書が自ら行っています。

また、館長のお話で印象的だったのは、「市の組織としての図書館」を意識するということです。これは私が今まで気づかなかった新しい図書館の課題でした。司書自らが市のことを知る必要がある、との館長の考えから、浦安市では行政側との交渉や庶務などもすべて司書職員が行っています。行政出身の館長は、利用者の「ありがとう」の言葉で図書館の魅力に気づかれたそうです。私もそのように、少しでも多くの方に図書館の良さを知ってもらえるように努力したいと思いました。

翌日は午前中に子ども図書館、午後からは国立国会図書館と福音館書店を訪ねました。

子ども図書館は児童書の研究者向けに作られた、子ども関係資料専門の図書館です。こちらでは絵本や児童書だけではなく、近年注目されている漫画やアニメ関係の資料も所蔵されています。

子ども図書館は旧上野図書館を改築し、国会図書館の分館として2002年にオープンしました。子供向けにおはなし会を行う「おはなしのへや」、子どもを対象とした閲覧室の「こどものへや」には子ども用 OPAC も設置されています。また、2階には第一・第二資料室があり、こちらではアジアや欧米で刊行された児童書が開架で並べられています。3階には展示会を行う「本のミュージアム」があり、他にも電子展示やDVDを閲覧できるコーナーや常設展示があります。私たちが訪ねた時には、展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界—」が行われていました。

次に訪れたのは国立国会図書館です。こちらは永田町にあり、向かいには国会議事堂があります。議員向けの立法調査や、納本制度に基づく国内出版物の網羅的収集などを行う、日本で唯一の国立図書館・国会図書館です。国会図書館では

ほぼ全ての資料が閉架になっていて、端末から利用申し込みを行い、カウンターで資料を受け取ります。職員の方の案内の下、書庫や資料室などを見学しました。

本館（図書を所蔵）と新館（雑誌を所蔵）とに分かれた書庫には計750万冊が所蔵されています。地下何層にも広がる書庫は最下層から見上げると壮観でした。私が普段利用する図書館は開架式のところが多いので、資料を請求して利用するという方式が新鮮でした。国会図書館は名前の通り国会議員向けのサービスも行っているため、他では見る事のできない貴重な資料も多く、調べ物をする際には非常に便利だと思います。

最後に見学させて頂いたのは、福音館書店です。聖書を扱う店としてスタートした同社では、これまでに「ぐりとぐら」「うさこちゃんシリーズ」「ピーターラビット」など数々の絵本を送り出してきました。こちらでは資料室や書籍編集部、月刊誌編集部などいくつかの部署を見学させて頂きました。

私がこちらで感じたのは、「子どものための読み物づくり」を非常に大切にされているということです。例えば、筒井頼子・作、林明子・絵「はじめてのおつかい」（1977年発行）という絵本では、出版当時は牛乳瓶だった小道具が、現在では牛乳パックに変わっています。他にも背景に書かれた「迷子の猫をさがしています」の連絡先が福音館書店の出版部につながるようになっていて、実際にかけてきた子どももいるそうです。

他にも、絵本の原画を閲覧させていただきましたが、月や太陽の位置や言葉の言い回し、人物配置や色調など、細部にいたるまで詳しく設定されていることが分かり、絵本の見方が大きく変わりました。

私は現在、図書館勤務を目指しています。今回東京地区見学会に参加させていただき、授業を受けるだけでは得られない図書館の魅力を感じることができました。経済悪化の影響を受けて、どの図書館も苦境を強いられています。また、図書館の社会的役割が理解されず、「誰にでもできる仕事」として切り捨てられる事態も起きています。そのような状況下で、これからも図書館が人びとに必須だと感じてもらうために何をしていけばいいのか。難しい問題ですが、これからの図書館を考える上で非常に勉強になった見学会でした。